

事業所名	小中高教組 【放課後等デイサービス】	支援プログラム（参考様式）	作成日	2025年	3月	1日	
法人（事業所）理念	えがお咲かせる、ひとりひとりの「できるよろこび」			営業時間	平日：10時から18時 土日祝・学休日：9時から16時		
支援方針	<ul style="list-style-type: none"> ・集団発育プログラムのほかに、個別療育プログラムを用意し、その日の「出来た！」を連絡帳で見える化（感覚統合・SST・知育・運動・ごっこ遊び等多岐にわたります。） ・他者のかわりを重点に、コミュニケーション能力やルールを吸収する力を充実させます。 ・音楽や体操、絵本などの遊びを通して情報を豊かにします。 ・「サービス」ではなく「ホスピタリティ」でお子様に寄り添います。 		送迎実施の有無	あり なし			
ねらい	支援内容			具体的な活動や支援内容			
健康・生活	<p>(a) 健康状態の維持・改善 (b) 生活のリズムや生活習慣の形成 (c) 基本的生活スキルの獲得</p> <p>(a) 健康な心体を育てながら健康で安全な生活を作り出すことを支援する。また、健康状態の常なるチェックと必要な対応を行なう。その際、意思表示が困難であるお子さまの障害の特性及び発達の過程、特性等に配慮し、小さなサインから心身の変異に気づけるよう、きめ細かな観察を行う。</p> <p>(b) 健康の増強 睡眠、食事、排泄等の基本的な生活のリズムを身に付けられるよう支援する。また、健康な生活の基本となる食を营养の育成に努めるとともに、楽しく食べるよう、口腔内機能・感觉等に配慮しながら、咀嚼・嚥下、姿勢保持、自具具等に関する支援を行う。さらに、病気の予防や不安の軽減を行なう。</p> <p>(c) リハビリテーションの実施 日常生活や社会生活をめぐらすよう、それぞれのお子さまに適した身体的、精神的、社会的訓練を行う。</p> <p>(d) 基本的生活スキルの獲得 身の回りを清潔にし、食事、衣類の着脱、排泄等の生活に必要な基本的技能を獲得できるよう支援する。</p> <p>(e) 構造化等による生活支援をねらえる 生活の中でも、さまざまな遊びを通して学習できるよう環境を整える。また、障害の特性に配慮し、時間や空間を本人に分かりやすく構造化する</p>			来時に体温測定を行い、健康状態を確認します。始まりの会では、健康状態や気持ちの表現を質問し、言葉やイラストを選んで自分の気持ちを表現できるよう促します。困った感じがいる際は、気持ちの絵カードや言葉のモデルを示し、自分で表現できるよう支援します。また、日常生活に必要なスキル（食事、排泄、着替えなど）の獲得を支援し、教室の日課に慣れ、生活リズムを整えるよう配慮します。（作業療法士が、姿勢や動作の改善に関するアドバイスを行います。）			
運動・感覚	<p>(a) 姿勢と運動・動作の向上 (b) 姿勢と運動・動作の補助的手段の活用 (c) 保有する感覚の総合的な活用</p> <p>(a) 姿勢と運動・動作の基本的手段上 日常生活に必要な姿勢保持や上下肢・下肢の運動・動作の改善及び防護、関節の拘縮や変形予防、筋力の維持・強化を図る。</p> <p>(b) 姿勢保持と運動・動作の補助的手段の活用 姿勢の確保や各部位の運動・動作が困難な場合、姿勢保持装置など、様々な補助用具等の補助的手段を活用してこれができるよう支援する。</p> <p>(c) 身体の移動能力の向上 自力での身体移動や歩行、歩行器・車いすによる移動など、日常生活に必要な移動能力の向上のための支援を行う。</p> <p>(d) 保有する感覚の総合的な活用 保有する感覚装置及び行動手段を十分に活用できるよう、道筋等を通じて支援する。</p> <p>(e) 感覚の特徴（感覚の過敏や弱さ）への対応 保有する感覚装置等の各種の補助機器等の各種の補助機器を活用できるよう支援する。</p> <p>(f) 感覚の特徴（感覚の過敏や弱さ）への対応 感覚や感覚の特徴（感覚の過敏や弱さ）に対する直接調整等の支援を行う。</p>			体操などを通じて、日常生活に必要な動作の基本となる姿勢保持や上肢・下肢の運動能力の向上を目指します。ロサーキットなどの異なる運動や動作を組み合わせて行なって、筋力、持久力、柔軟性などの運動能力を高めます。注意して取り組んだり、集中して取り組めるような環境を整え、楽しく取り組むよう支援を行ないます。			
本人支援	<p>(a) 認知・行動の育得 (b) 空間・時間、数等の概念形成の育得 (c) 対象や外部環境の適切な認知と適切な行動の育得</p> <p>(a) 認知の発達と行動の育得 視覚、聴覚、触覚等の感覚が十分発達して、必要な情報を集めして認知機能の発達に促す支援を行う。</p> <p>(b) 知識から行動への認知過程の発達 環境から情報を得ると、そこから必要なメッセージを選択し、行動につなげるという一連の認知過程の発達を支援する。</p> <p>(c) 行動の手順から行動の結果までの概念の形成 物語の順序・属性、形、色、音が変化する様子、空間・時間等の概念の形成を図ることによって、それを認知や行動の手順通りとして活用できるよう支援する。</p> <p>(d) 教数、大小、大きい等の数獲得 教数、形の大きさ、大きさ、色の違い等の習得のための支援を行う。</p> <p>(e) 認知の偏りへの対応 認知型の偏りを踏まえ、自分に入ってくる情報に適切に処理できるよう支援し、認知の偏り等の個々の特性に配慮する。また、こだわりや偏食等に対する支援を行う。</p> <p>(f) 行動障害への対応 行動障害への対応及び対応</p>			買い物や料理を通してお金の使い方や計算、時間の管理などを学ぶ機会を提供します。絵本や歌、パズル、時間を計るゲームを使い、楽しみながら空間・時間、数等の概念を学び、深めます。お子さまが自ら問題を解決する機会をもと、教材や教員を用いて視覚的に理解する力の向上を促します。			
言語 コミュニケーション	<p>(a) 言語の形成と活用 (b) 言語の内容及び表現 (c) コミュニケーションの基礎的能力の向上 (d) コミュニケーション手段の選択と活用</p> <p>(a) 言語的行動の偏り 具体的な物語や絵本・言葉の意味を結び付けるなどにより、体系的な言語の習得、自発的な言葉を促す支援を行う。</p> <p>(b) 受信言語と表出言語の支援 話し言葉や各学年の文字、記号等を用いて、相手の意を理解したり、自分の考えを伝えたりするなど、言語を受容し、表出する支援を行なう。</p> <p>(c) 人の相手作業によるコミュニケーション能力の獲得 他人の相手作業によるコミュニケーション能力の獲得</p> <p>(d) 人に配慮された場面における人の相手作業を通して、共同注視の獲得等を含めたコミュニケーション能力の向上のための支援を行う。</p> <p>(e) 指差し、指さし、手筋、サイン等の活用 指差し、指さし、手筋、サイン等を用いて、環境の理解と意思の伝達ができるよう支援する。</p> <p>(f) 読書・書き込みの方向への支援 発達障害のお子さまでは、障害の特性に応じた読み書き能力の向上のための支援を行う。</p> <p>(g) コミュニケーション機器の活用 各種の文書・記号、接写機、機器等のコミュニケーション手段を適切に選択、活用し、環境の理解と意思の伝達が円滑にできるよう支援する。</p>			お子さまの興味や関心領域に合わせて、職員が理解し応答しながら、遊びやりとりを通じて入への関心を広げます。衣服やジャスマッチャー、根津などを使ってコミュニケーションを支援し、実際にものを見たり触れたししながらこどとの理解を深めます。歌やリズム、ゲームを通じて楽しくことはを学べる環境を提供し、日常会話や活動で新しいことばや概念を学ぶ機会をつくります。また、「貸して」「いっぱいに遊ぼう」などのやりとりを練習する場を設け、職員が見本を示しながら支援します。			
人間関係 社会性	<p>(a) 他の人の関わり（人間関係）の形成 (b) 自己の理解と行動の調整 (c) 仲間づくりや集団への参加</p> <p>(a) アタッチメント（愛着行動）の形成 人の間の関係を築き、身近の人と社会的な関係を築き、その信頼関係を基盤として、周囲の人と安定した関係を形成するための支援を行なう。</p> <p>(b) 他の人の関わり 他の人の関係を理解する「見守り」により、社会性や人間関係の発達を支援する。</p> <p>(c) 仲間づくり 周囲に子どもがいて「無闇」とある「あそぶ」状態から並行遊びを行い、大人が介入して行う連合的な遊び、役割分担したリールを守つて遊ぶ協同遊びを通して、徐々に社会性の発達を支援する。</p> <p>(d) 一人遊びから協同遊びへの支援 一人遊びから協同遊びへの支援</p> <p>(e) 仲間づくりや集団への参加 大人を介して自身のことでなく、できないことなど、自分の行動の特徴を理解するとともに、気持ちや情動の調整ができるよう支援する。</p>			事前に複数の手順を用いて丁寧に説明し、お子さまが安心して集団活動に参加できるよう支援します。少人数での体操やゲームなどの活動を通じて、社会性向上に力をいれます。またお子さまが自分が他の人の感情と理解し、適応に実践できるよう、職員がモデルを示します。			
家族支援	<p>・個別療育や定期健診にて行った活動の内容を説明し、お子様でアビリティ評価記録にてお伝えします。</p> <p>・6ヶ月に1回程度、モニタリングとは別で面談の機会を設け、保護者に共有しています。</p> <p>・個別療育の観察の機会を作り、保護者に対して支援のポイントや開拓の方フィードバックを行ないます。</p>			<p>・必常に応じて学校（園）に訪問し、児童との間わり方にについて情報共有、支援方針を討議します。</p> <p>・事業所での様子を他事業所と相談支援にし、訪問、電話等で伝へ、日々の様子の情報交換を行ないます。</p> <p>・学校（保健室・幼稚園）への巡回時、先生と学校（園）での過ごしの情報共有を行ないます。</p>			
地域支援・地域連携	<p>・関係機関に役割分担し、情報共有を行います。</p> <p>・連携会議を開催し、情報収集・情報発信にて協議します。</p> <p>・各関係機関に情報書を基に、具体的な場面での間わり方や、困りごとに応じての提案やポイントを共有します。</p> <p>・セルフプラットフォームには利用計画のコーディネーターの中核を担う事業所の関係者が会議に参加し、情報共有を行ないます。</p>			<p>・プロクサムグループ本部にて下記研修実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スタッフ研修 ・専門職員によるスキルアップ研修 ・虐待防止研修 ・身体拘離矯正化研修 ・感情対応研修 <p>その他</p> <p>・定期的にセミナーやワークショップの開催、日々の検討会</p>			
主な行事等	<p>・季節の行事</p> <p>・近隣施設や公園への外出活動</p>						